

経済振興委員会報告資料

アジア美術館 魅力向上に向けた
基本計画の検討状況について

令和7年6月
経済観光文化局

アジア美術館は、1999年(平成11年)にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館して以降、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっているが、その価値や魅力を広く市民に届け切れず、十分に活かしきれていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を行っている。

これまでの検討を踏まえ、アジア美術館の拡充先を「警固公園地下」としたうえで、令和7年度はアジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を行っており、今回、魅力向上の基本的な方針(案)について報告するもの。

■ これまでのアジア美術館の魅力向上に向けた検討状況

- 令和6年 2月 経済振興委員会へ検討状況を報告(アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性)
- 令和6年 9月 経済振興委員会へ検討状況を報告(機能拡充の方向性、拡充先の条件整理)
- 令和6年12月 経済振興委員会へ検討状況を報告(拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証)
⇒ 拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定

1 基本計画策定に関する取組み

(1) 有識者会議について

基本計画策定に関する検討を行うにあたり、有識者会議を設置し、専門的見地から幅広い意見を聴取する。

■ 意見聴取する内容

基本的な方針案※、施設整備の基本的な考え方、施設整備計画案、運営計画案、事業手法案 など

※第1回有識者会議にて意見聴取済み

(2) アイデア収集等について

アジア美術館の魅力向上に向け、活用可能性を最大限に引き出すため、アイデア収集等により民間事業者等のアイデアやその実現手法を確認し、基本計画や事業手法の検討の参考とする。

■ アイデア収集する内容(案)

- ・アジア美術館の魅力向上に資する取組み
- ・警固公園地下駐車場の地下空間、地上部の活用方法
- ・市民や観光客が気軽に立ち寄るためのソフト・ハード面での工夫
- ・事業手法や事業スキーム
- ・地域や公園等に対する貢献、にぎわい創出に関する提案 など

2 検討のステップ

今回、取りまとめた基本的な方針(案)を踏まえ、有識者会議やアイデア収集等を行いながら、アジア美術館の魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を進めていく。



※最適事業手法検討の中で、その後の手順は変更となる可能性がある
※適宜、有識者会議、議会等へ報告を行う

3 魅力向上の基本的な方針（案）

アジア美術館の魅力向上を検討するにあたっては、「Fukuoka Art Next (FaN)」や「天神ビッグバン」等の福岡市のまちづくりへの貢献や、アジア美術館を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、当館独自の強みをさらに磨くことを念頭に、アジア美術館の魅力向上の基本的な方針(案)、これからのアジア美術館の方向性を取りまとめた。

(1) 魅力向上の基本的な方針（案）

**アジア美術と出会い、その問いかけから、自分と世界を見つめる美術館
交流を通じて、アジア美術の発展と福岡市の都市の魅力向上に貢献する美術館**

(2) これからのアジア美術館の方向性

魅力向上の基本的な方針(案)の実現に向けて、これからのアジア美術館の4つの方向性を掲げ、その方向性に沿った美術館活動の磨き上げを図る。

1. 出会う・気づく – アジア美術と気軽に会える場 –

子どもから大人まで、さまざまなきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と出会う場を提供します。

都心の核である天神の公園に展開し、集客力のある施設として賑わいを創出し、より多くの人々にアジア美術の魅力に気づく機会を提供します。

また、地域の安全・安心にも貢献する場となることを目指します。

実現に向けた
具体的な取組み(案) ・ 展示室外におけるアートを感じる空間の創出
・ 市民や来街者が気軽に参加できる体験型イベントの充実 など



2. 楽しむ・見つめる – アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場 –

子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめ、広い視点や柔軟な発想を得ることができる場を創出します。

特に、未来を担う子どもたちにとっては、楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供します。

実現に向けた
具体的な取組み(案) ・ 子ども向け対話型鑑賞の強化
・ 高齢者、また障がい者のためのプログラムの充実 など



3. 伝える・拡げる – アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場 –

アジア美術と人々をつなぎ、作品が発する問いかけから生じた新たな視点や気づきを共有するため、魅力的な展示を行います。

アジア美術の歩みを物語る作品を幅広く収集し、調査・研究を推進することで、作品の価値を高め、魅力を発信し、アジア美術の発展に貢献していきます。

さらに、国内外の研究者や関連施設との連携を強化し、次世代の人材育成を図っていきます。周辺の施設や企業等とも連携を進め、地域の回遊性やブランド価値の向上にも貢献します。

実現に向けた
具体的な取組み(案) ・ アジア美術に関する幅広く継続的な収集、調査、研究、展示
・ アジアの学芸員や研究者の招へい、協働企画・研究の推進、
国内外の美術館との広範な連携
・ 周辺の施設や企業と連携したイベント等の実施 など



4. 創る・挑む – アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場 –

アジアのアーティストの作品の収集や展覧会の開催、アーティストが滞在して制作も行うアーティスト・イン・レジデンス等の充実を通じて、アーティストの成長を支援するとともに、新たな表現や世界への挑戦を支えます。

実現に向けた
具体的な取組み(案) ・ アーティスト・イン・レジデンス事業の充実
・ アジアのアーティストと福岡のアーティストや市民との交流を促進
・ アジアのアーティストの個展やグループ展の企画・実施 など

